

終戦
80年
上映

すずさん百歳の年に ふたたび全国で。

第40回
日本アカデミー賞
最優秀アニメーション作品賞

第90回
キネマ旬報ベスト・テン
日本映画第1位

第41回
アヌシー国際アニメーション映画祭
長編部門 審査員賞

この世界の片隅に

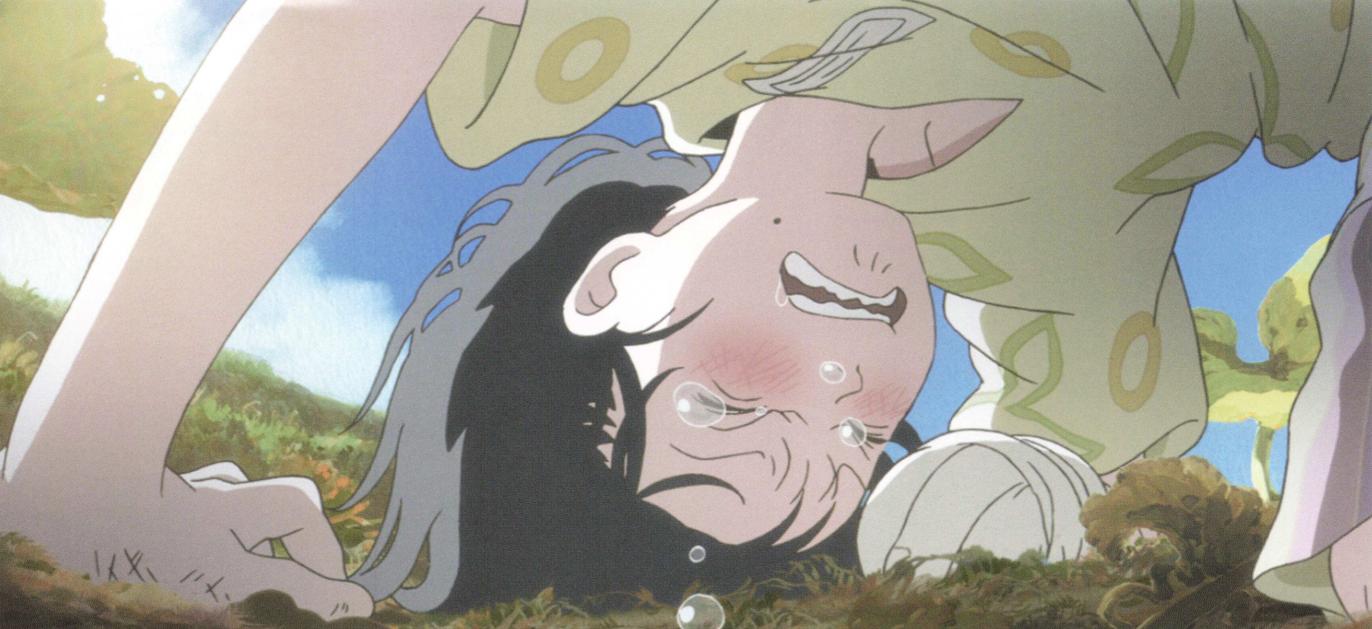
昭和20年、
広島・呉。
わたしはここで生きている。

主演：のん 原作：こうの史代(コアミックス刊) 音楽：ヨトリンゴ 監督：片淵須直

konosekai.jp

© 2019 こうの史代・コアミックス / 「この世界の片隅に」製作委員会

映倫
映倫番号
D170-A



すずさんの日々が、ふたたびスクリーンに。

2025年8月。日本はこの戦争の終結から80年の節目を迎えます。

そして、もし——

この物語の主人公・すずが、この世界のどこかで今も暮らし続けているならば、——今年、百歳。

この史代による同名漫画を原作に、片淵須直が監督・脚本を手がけた長編アニメーション映画『この世界の片隅に』（2016年公開）が、全国の映画館に帰ってきます。

戦時下の広島・呉を舞台に、大切なものを失いながらも毎日を営み続ける女性・すずを描いた本作。

公開当初は63館でのスタートながら、かけがえのない日常とそこで紡がれる小さな人の気持ちが共感を呼び、観客の声に押されて公開が拡大。累計484館、総動員数210万人を超える社会現象になりました。

さらに、第40回日本アカデミー賞 最優秀アニメーション作品賞ほか、第90回キネマ旬報ベスト・テン日本映画第1位など、アニメーション映画としては異例となる日本映画賞を次々と受賞。その評価は海を越え、国際的な映画祭でも高く評価されました。

あれから9年。時は流れても変わらず心に残り続ける物語が、期間限定で劇場の大スクリーンによみがえります。

炊事の湯気、絵の具の匂い、バケツの重さ、ほほをなでる風。

なにげない日々の中に、たしかにあった命の灯り。

すずが見つめていた“片隅”から、

80年の時を経て、いまを生きる私たちへ。



STORY

1944(昭和19)年2月。18歳のすずは、突然の縁談で軍港の街・呉へとお嫁に行くことになる。新しい家族には、夫・周作、そして周作の両親や義姉・径子、姪・晴美。配給物資がだんだん減っていく中でも、すずは工夫を凝らして食卓にぎわせ、衣服を作り直し、時には好きな絵を描き、毎日の暮らしを積み重ねていく。

1945(昭和20)年3月。呉は、空を埋め尽くすほどの艦載機による空襲にさらされ、すずが大切にしていたものが失われていく。それでも毎日は続く。そして、昭和20年の夏がやってくる——。

のん

細谷佳正 稲葉菜月 尾身美詞

小野大輔 潘めぐみ 岩井七世/澁谷天外(特別出演)

原作：この史代『この世界の片隅に』（コミックス刊）／企画：丸山正雄

監督補・画面構成：浦谷千恵 キャラクターデザイン・作画監督：松原秀典／美術監督：林孝輔／音楽：コトリンゴ

プロデューサー：真木太郎／監督・脚本：片淵須直

製作統括：GENCO／アニメーション制作：MAPPA／配給：東京テアトル／製作：『この世界の片隅に』製作委員会

2016年/日本/カラー/129分/ピスタ

助成：文部科学省文化庁文化芸術振興費補助金

konosekai.jp X @konosekai_movie

© 2019 この史代・コミックス / 『この世界の片隅に』製作委員会

2025.8.1(金)～期間限定上映

ムピチケ前売券(オンライン) ¥1,500(税込) 発売中! ※劇場での販売はございません